

学校評価 自己評価結果

～教育委員会への『報告』より抜粋

Plan-Do 全体計画と取組の具体

● 重点目標

【主軸となる取組】

カリキュラム・マネジメントと

一体化した働き方改革の推進

【重点 1】すすんで考え学ぶ子の育成

- ・基礎的な知識・技能の定着（国語・算数）

・主体的に他者と関わり、深い学びを実現するための授業改善

【重点 2】友達を思いやりともに生きる子の育成

- ・問題行動を未然に防ぎ、自己肯定感を育む授業・特別活動・集団づくり

● 取組内容

【主軸となる取組】

カリキュラム・マネジメントと

一体化した働き方改革

時間対効果（量から質へ）を主たる指標として、業務全体や個別の取組内容を検証、改善するとともに、カリキュラム・マネジメントと一体化した工夫改善、精選を図り、持続可能な教育活動の充実につなげる。

【スマートな組織と

働き方に向かう文化的風土の醸成】

- ① 優先順位と劣後順位を見極め業務に軽重を付けるための研究と修養に励む。
- ② 行政機関等に対し、学校現場の困り感を伝え、業務改善の具体につながるような“スクラップ”を求める。
- ③ 組織的、計画的な学校運営により児童と向き合うゆとりを生み出す。
- ④ “ポストコロナ”を見据えた望ましいWLBの維持、QOLの向上と併せた自己研鑽を進め、教育活動の充実につなげる。

【重点 1】すすんで考え学ぶ子の育成

- ① 学習状況調査結果から明らかになった各学年

の課題を意識し、授業改善を行う。

- ② 学習に困り感を感じている児童に対して、授業時間や放課後を活用した個別指導を、学習支援員と連携して行う。
- ③ 個人面談等を活用し、家庭と連携して、学習習慣を身につける。
- ④ 図書館司書と連携し、図書委員会等児童の主体的活動を通して、学校図書館の有効利用と、利用率の向上を目指す。

【重点 2】友達を思いやりともに生きる子の育成

- ① 他者を思いやることについての指導を道徳教育をベースに、全校集会・たてわり活動・学級活動・授業等で積極的に行い、相手を思いやる学年、クラスづくりに努める。
- ② 学習・学級・学校の活動で、以下の力を育む場を設定し、自己肯定感を高める。
 - ・自分の感情（困り感・喜び）や、他者の感情を見つめ、認める力
 - ・自分の良さや友達の良さに気付き、物事を肯定的に考える力
 - ・思考を伝え合うコミュニケーションの力

● グラフの凡例

左から順に……当てはまる／やや当てはまる／あまり当てはまらない／当てはまらない／無回答

Check 重点目標の取組状況・達成状況

【主軸となる取組】

カリキュラム・マネジメントと

一体化した働き方改革

コロナ化を追い風にした、3ヶ年にわたる取組の成果が現れ、職員の学校運営への参画情況

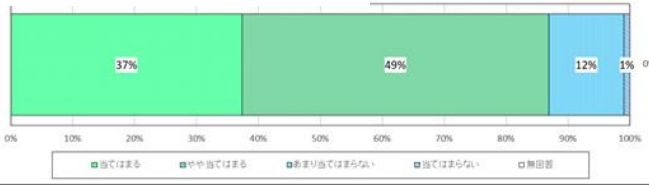
の充実、ストレスチェックの結果改善等、双方の取組を一体化させた改革を進めることができた。

- この取組を推進するにあたっては保護者・地域の皆様にご理解をいただくことが必須の条件となります。コロナ禍下にあっても印刷媒体とWebサイト双方のクロス・メディア的手法により、過去の取組も含めてリンクさせ、カリキュラム・マネジメントの在りようを“見える化”することに努めま



した。保護者対象のアンケートにおいてもおおむね満足とのご評価をいただいています。

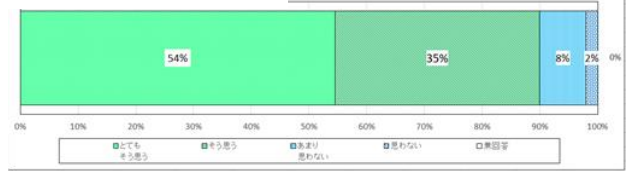
1. 学校は教育方針を分かりやすく伝えている



【重点1】すすんで考え学ぶ子の育成

- ① 各学年で、学習状況調査の結果を、次年度に引き継ぐ。国語科が全国平均より低く「読むこと」「書くこと」「主体的に学習に取り組む態度」「学習習慣」に課題がある。
- ② 算数を中心としたティーム・ティーチングのT2と取り出しによる個別指導、放課後の個別指導は、学習において支援が必要な児童に非常に有効だった。
- ③ 低学年の授業での図書館利用が増加した。衛生面を配慮しつつ学校司書と連携し、可能な範囲で図書館を活用することができた。
 - 学習関連のアンケート結果については、概ね良好な評価をいただいておりますが、自らの学びの在りようをメタ認知し、自己調整を図りながら学習を継続する力を引き続き育成する必要があります。キャリア・パスポートの取組との関連を図り、学習履歴を蓄積するとともに、振り返ることのできる環境を整えます。

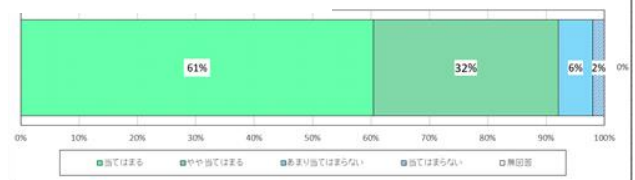
3. 先生の教え方はわかりやすい



【重点2】友達を思いやりともに生きる子の育成

- ① 日常的に児童の行動観察を各学年行い、問題行動については月に1回の児童支援会議で情報共有を行うことにより、組織による支援体制を目指した。いじめアンケート実施後、児童面談・保護者面談を行い、困り感だけでなく、長所や成長を伝える場を大切に。学校評価アンケートに変化は見られなかった。
- ② 学年学級では一年間の目標を定期的に振り返り、係活動や帰りの会、相談の機会を充実させることにより、児童の孤立を防ぎ、自分を表現しやすい雰囲気づくりに努めた。
 - 児童の「安心」については90%超の皆様から好評価をいただきましたが、いじめ防止の取組については、その限りではありませんでした。よりきめ細かい取組と、その成果についてお知らせしていく必要があります。

3. 子供は安心して学校に通っている



Action 今後へ向けての改善方策

【主軸となる取組】

カリキュラム・マネジメントと

一体化した働き方改革

ポスト・コロナのフェーズを迎えるに当たり、種々の教育活動やそれに伴う業務を、ただコロナ禍以前に戻すのではなく、見直しの成果を踏まえた取組を継続する。

【重点1】すすんで考え学ぶ子の育成

- ① 日々の授業改善を学年内・学年間で共有していくことを継続していく。また、前年度の改善の足跡を次の年度につなげていく。
- ② 学習支援員と情報共有し、よりよい指導方法について検討していく。また、授業支援を各学

年のニーズに合わせて継続していく。

- ③ 家庭学習の検討課題として、自由な取り組み、選択制、家庭の連携などがあがっている。継続的に検討し、校内の方針を検討しながら学力向上につなげていきたい。
- ④ 今後も学校司書と連携し、1～3年生の授業内での読書指導、4～6年生の調べ学習等による図書館利用を進める。また、図書委員会における休み時間の自主的な学校図書館利用推進を継続していく。

【重点2】友達を思いやりともに生きる子の育成

- ① 今年度不登校児童の増加傾向が課題の一つとなっている。SC や SSW、ふれあい相談員とも



横須賀市立馬堀小学校

すすんで考え学ぶ子

友達を思いやりともに生きる子

元気でたくましい子

連携し、事例研究や、教職員の研修を設け、楽しく安心して登校したくなる学校・学級づくりに努めたい。

- ② 現在行われているいじめアンケートの調査項目を見直し、自分の良さや、仲間との関係性

を振り返り、支援につながるような項目の追加・改訂を検討することにより、自己肯定感を育み、困り感や支援の必要性のある児童・事案への早期対応を目指したい。

